



秩父の山々に響いた 皆野屋台ばやし



五月三日、美の山にある皆野椋神社の奥社、蓑山神社で「八十八夜祭」が行われました。新緑に包まれ、つつじが咲きほこる中を、神主を先頭におかめ、ひよつとこ、天狗の面をつけた人達や地元の氏子たちが、笛や太鼓の演奏とともに「御神幸行列」が進みます。

この日は、皆野小学校郷土芸能クラブで三年間学んだ卒業生たちに修了証が渡され、美の山山頂広場で「皆野民俗芸能奏楽研修会」の人たちといっしょに伝統芸能の演奏が披露されました。

皆野椋神社には100近い神楽があるそうですが、そのうちの七つが紹介されました。初挑戦の中学・高校生の女子による「二人太刀」(にんだち)は、二人で刀を持って踊る神楽です。緊張が伝わってきます。

次は「大黒舞」、大黒様が踊りながら餅をまきます。たくさんの人集りができ、私も餅を一つキャッチしました。

大太鼓4個、小太鼓6個がいつせいに打ち鳴り、かねや笛とともに、秩父の山々に響きわたると「皆野屋台ばやし」のはじまりです。

「秩父屋台ばやし」より少しテンポの速いお囃子です。胸にジンときて、「皆野に生まれて良かった！」隣で聞いていたおばさんも「涙がでちゃう」と感動していました。

主催者の関根さんは「普通はこんなにたくさんさんの太鼓では演奏しないが、今日は特別。後継者を育てるために、みんなで演奏しました」と話され、「来年もやります！」その声に今から楽しみます。

ふるさとに昔から伝わるお囃子や神楽、次の世代にも伝えたい。そんな思いを感じました。

(常山知子)

御神幸行列は、1970年(S45)頃までは秋祭りの時に、皆野椋神社を出発し、皆野の商店街、親鼻を通過して土京の諏訪神社(遙拝所)まで行列が行われ、翌日また椋神社にもどってくるという行事でしたが、その後、交通量が増え、行列できなくなり、それを現在は美の山の山道で再現されているそうです。

TPP交渉への参加は日本を

アメリカに丸ごと

売り渡すことになる

(日本共産党のTPPについての)

見解の一部を載せます)

オバマ政権のねらいは

対日輸出や投資の拡大

TPP交渉には、アジアの主要国で、近年、日本との貿易・経済関係が大きく発展している中国、韓国、タイ、インドネシア、フィリピン、インドなどは参加していません。日本が参加しなかったからといって、「アジアや世界から取り残される」という話ではありません。

日本がTPPに参加すれば、交渉国全体のGDPで日米が80%を占めるようになり、実質的には、日本がアメリカとのEPA(経済連携協定)を結ぶことと同じです。

それは、日米対等の「ルールづくりへの参加」どころか、事前協議の経過が示すように、「アメリカに一方的に取り込まれる」だけになるのは必至です。

新米議員のひとりごと

常山 知子

5月の連休も終わり、子どもさんやお孫さんが遊びに来た家では、もとの静けさにもっとしていることでしょうか。それとも、どこかへお出かけでしたか？

この連休中、財界の「一行様を引き連れ、中東へ「原発」のセールス行脚に出かけた方がいらつしやるようです。ご存じ安倍首相。

東京新聞5月8日付「本音のコラム」に文芸評論家の斎藤美奈子さんが書いています。「トルコでは、原発の発注に成功したようだ」「自分たちの重大事故は何一つ解決していないのに『事故の素』をいけしやあしやあと他国に売り込む」それを評価した日経、読売新聞の社説に「よくいうわ!!」「商談成立の記念に日本政府はトルコ首脳を日本に招くべきだろう、そして福島を案内し、日本の原発がいかに『安全』かを見ていただく。技術に自信があるならでさるでしょ」と締めくくりました。読んでいて胸がスーとしました。

大手新聞社は、安倍首相との夕食会があるかぎり、こんな批判めいた記事は載せられないでしょう。